

GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES





横山知行 保健学研究科長

#### コンテンツ

大学院生からのメッセージ 修了生からのメッセージ 博士前期課程の特徴 博士前期課程各ユニットの特色 専門看護師 (CNS) プログラム 専門職養成プログラム 博士後期課程の特徴 博士後期課程各領域の特色 所属教員と研究テーマ;

看護学領域

生体情報検査科学領域

リハビリテーション学領域(理学療法学) リハビリテーション学領域(理学療法学)

出願から修了までのプロセス

就学支援・教育支援・修了後の進路

入試日程 • 募集人員 アクセス・問合せ

#### 保健学研究科長挨拶

大学院保健学研究科は保健学の研究を行い、高度な保健医療人に 加え保健学研究者と教育者を養成するために、平成 23 年度に大 学院医学系研究科から独立しました。博士前期課程と後期課程で 構成されています。

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習 慣の変化に伴い、疾病・障害の構造が大きく変化するとともに、 新たな保健医療問題が多数生じています。また、国民の健康志向 が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。 こうした人間の健康を維持するための取組みは、病気の解明や新 しい治療法の開発のみでは達成できません。その理由は、人々の 健康が社会・政治・経済状況、地域性、さらにケアに携わる様々 な医療人の資質に大きく左右されるからです。保健学は、健康な 生活に向けた統合的なアプローチを行い、健康な人たちで構成さ れる地域社会を目指す学問と考えられます。

一方、国際社会においては保健人材の不足が深刻化しています。 国連や WHO は、AIDS 等の感染症の撲滅や周産期・小児期死亡 率の低下に向けた世界的な取組みを行っており、質の高い保健人 材育成をはじめとした保健システムの強化を求めています。

こうした社会的要請に応えるため、博士前期課程では研究対象 課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学 ユニット」、「地 域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプ ローチの研究・教育体制を構築しました。博士後期課程では、専 門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学 領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」 に分けたカリキュラムを組み立てています。こうして、全人的医 療を理解し、高度な専門知識と技術を持つ保健学研究者・教育者 そして実践者の養成を行っています。

本研究科では、既に医療・保健の分野で活躍されている方々が、 現場で直面する様々な問題を研究課題として取組む地域密着型の 研究体制を構築しています。これは、平成 19 年度に『文部科学 省大学院 GP』として高い評価・支援を受けて始めた「地域・大 学院循環型保健学リーダーの育成」事業を基盤としています。こ の地域交流に基づく教育は、『教育 GP』として支援を受ける学部 教育と合わせて、学部・大学院の一貫した教育システムとなって

- います。また、先進的チーム医療教育の実績は国際社会から高い
- 7 評価を受け、平成 25 年に WHO 協力センターに指定されました。
- チーム医療教育に関する研究、アジア地域の教育者・実践者への
- 指導・トレーニングおよびガイドラインの開発などを積極的に進 めています。さらに、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および
- 11 母性看護専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネー 12
- ター(CRC)の育成を行う CRC 管理者養成コースも開設してい 13
- ます。平成 26 年度には、『文部科学省 GP:課題解決型高度医療 人材養成プログラム』の優れた取り組みとして「群馬一丸で育て
- る地域完結型看護リーダー」事業が採択されました。超高齢社会 17
- において「地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護」が提供 19 できる人材養成を全国に先駆けて行っております。
- 20 こうした具体的な成果を基に組み立てられた教育システムで、
- 21 社会の要請に対して真摯に耳を傾け、新たに生まれる課題に柔軟
- にそして創造的に対応する能力を養う意欲のある皆様の入学を期 23
- 待しています。

24

# Nursing !

## 大学院生からのメッセージ

## 看護学領域

#### 博士前期課程

#### 1 つのテーマに向き合い続けています



黒岩 めぐみさん

#### 大学院進学の動機

"NICUにおけるきょうだい面会について"の研究に取り組みたいと思い、大学院に進学しました。感染予防のため、入院している児に面会ができるのは両親だけでしたが、制度を整えて祖父母、きょうだいへ対象を広げました。弟さんや妹さんに会った子どもたちへの理解を深め、今後の家族ケアにつなげていきたいと思っています。

#### 大学院進学後の生活

私は、附属病院で看護師の仕事をしています。不規則な勤務ですが、学生としての予定を中心としながら、半年ずつ計画を調整しています。病棟の皆さんの協力のおかげで、授業に出席し、研究活動をすすめられています。小児ゼミでの報告会では、知見が深まり、気持ちが引き締まります。また、研究に熱い思いをもつ同期の方々の存在が心の支えになっています。

#### 将来の目標

大学院での経験を通して、これまでとは違う視点を持ちはじめたように 思います。改めて気づいたのは、看護という力は、とても優しく強く、 そして広がりがあること、そして臨床の場面に、たくさんの研究のテー マがあることです。研究の手法の多彩さにも驚きました。修了後も、臨 床で継続して研究に携わっていきたいと考えます。

#### スケジュール



## 博士後期課程

#### 大学教員として、社会に貢献できる研究者・教育者を目指しています

博士前期課程修了後、看護師として病院で働く中で、自身の研究能力の未熟さを感じ、研究についての学びを深めたいと思うようになりました。これから専門職として働いていくうえで、研究の知識を深めること、幅広い視野で物事を捉えることや論理的な思考力を養うことが必要であると考え、博士後期課程への進学を決意しました。博士後期課程に入学後、研究方法論や専門分野および関連分野についての理解を深め、研究活動につなげることができました。今後は、臨床現場に役立つ研究を目指し、取り組んでいきたいと考えています。また、現在は大学教員となりましたので、これまでに培った知識や経験を、学生指導に活かしていきたいと思います。



中村 美香さん

## 大学院生からのメッセージ

## 生体情報検査科学領域

#### 博士前期課程

#### 研究を通して身に付けたことを臨床に活かしていきます



佐藤 澄恵さん

#### 大学院進学の動機

学部での卒業研究を行う中で、「これまで誰も明らかにしていないことを明らかにする」という研究の世界に魅力を感じ、さらに昔から実験を行うことが好きだったため、大学院に進学しようと思いました。また、研究や授業を通して様々な知識や技術を得て臨床に活かしていきたいと考えたこともきっかけの一つです。

Sciences!

#### 大学院進学後の生活

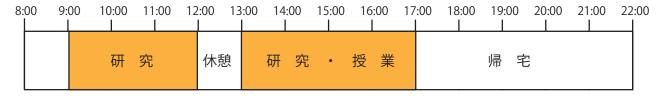
大学院生活でのメインは実験です。時間が自由に使えるため、先生や先輩方と相談しながら自分で計画を立てて実験を進めています。授業では、自分の興味のある内容について深く話を聞くことができます。空き時間には論文を読んだり企業のオンラインセミナーを受けたりすることで、情報収集を行うことも大切にしています。

検査の分野にその経験を活かしていきたいと考えています。

#### 将来の目標

将来は病院で臨床検査技師として働きたいと考えています。特に小児医療に興味を持っているので、小児検査のプロフェッショナルになることを目指しています。大学院での研究を通して遺伝子検査の知識や技術を得ることができ、情報収集力も身に付けることができているので、小児検査の分野にその経験を活かしていきたいと考えています。

#### スケジュール



## 博士後期課程

#### 一人前の研究者・教育者になるために日々学び続けていきたいです

博士前期課程中に参加した国際学会での衝撃が忘れられず、 後期課程への進学を決めました。世界中の人たちの研究を実際に見聞きしたことで、答えのない問いに挑む研究の面白さ、 奥深さを改めて感じ、いつか自分の研究成果を世界に発信で きたらと思うようになりました。

現在は、この大学で出会った素敵な先生、仲間たちと充実した研究生活を送っています。皆で行う実験データについてのディスカッションでは、自分一人では気づくことのできない新たな視点を得ることができ、学びの多い毎日です。大学院卒業後は、自身の研究を深めていくことはもちろん、大学教員として学生、後輩研究者の育成にも携わりたいと思っています。研究者、教育者として大きく成長できるよう、これからも知識と技術を貪欲に吸収し続けていきたいです。



村上 有希さん

## 大学院生からのメッセージ

## リハビリテーション学領域 (理学療法学)

博士前期課程

#### 討議を重ねて研究を進め、将来の社会課題解決につなげたいです



佐藤 孟水さん

#### 大学院進学の動機

本学の学部に在籍していた時に、卒業研究を進める中で興味のある分野ができ、それを深める目的で大学院に進学しました。また、仕事と大学院の両立をしている先輩の話を聞き、様々な視点を持つ方々から刺激を受けることができ、意見交換を通して論理的思考力を磨ける環境を魅力的だと感じたことも進学したきっかけの一つです。

#### 大学院進学後の生活

週4~5日間、昼間は職場で臨床業務を行い、夜間は大学院での講義の履修や研究活動に励んでいます。仕事と大学院の両立は日々を多忙にしますが、無理をせずに休みを上手く挟むことで心身のバランスをとっています。講義や演習のレポート、研究計画は余裕をもって進めるように心がけています。

#### 将来の目標

臨床と研究をブラッシュアップしていきたいです。大学院で学んだ研究手法や問題解決方法を基盤として、臨床や社会における課題を解決することに取り組んでいきたいと考えています。リハビリテーションの考え方をエビデンスとして形にするためには研究が必要であり、学術的な観点から課題解決に向き合えるように挑戦を続けることが目標です。

#### スケジュール



## 博士後期課程

#### モンゴルに帰国後、大学院での経験を他の理学療法士に伝えることで患者様の日常 生活をより良くしたいです

モンゴル国では理学療法の歴史が浅く、大学院で理学療法に関する研究や学習を行うことは難しいです。このため、私は日本に留学し、本学の博士前期課程に入学しました。博士前期課程終了後、学んだことをモンゴル国の理学療法士に還元できる自信がなかったこと、研究に関する知識をもっと高めたかったことから博士後期課程に進学しました。

博士後期課程の研究内容は、脊髄損傷患者の日常生活活動の評価 尺度のモンゴル語版の作成と、その信頼性及び妥当性の検討でした。 博士後期課程を修了した後に帰国し、今回学んだことを活かして モンゴル国の患者様の日常生活をより良くするための取り組みや、 他の理学療法士と一緒に臨床における疑問を明らかにするために積 極的に臨床研究を進める予定であります。



Therapy!

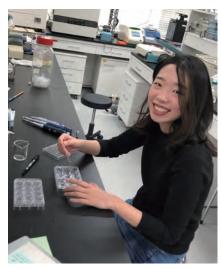
Yanjinsuren Batbayar さん (右端) と本学への留学生達

## 大学院生からのメッセージ

## リハビリテーション学領域 (作業療法学)

## 博士前期課程

## 研究と臨床において根拠に基づく自分の考えを持てるようになりたいです



田中 侑奈さん

#### 大学院進学の動機

私は脳の機能について興味があり、卒業研究を通して動物実験の面白さを知りました。また、抄読会を通して、表やデータから批評的に論文を読むことの大切さを学びました。これらの経験を積みたかったため、進学を決意しました。

作業療法では発達障害領域に興味があり、療育が盛んな海外発祥の資格は修士号が必要なことが多いため進学を決意しました。

#### 大学院進学後の生活

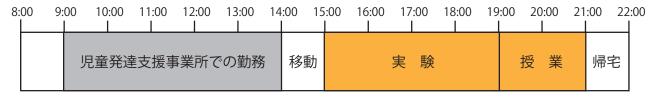
私の場合、動物実験のため実験を昼間に行う必要があり、ASD 児専門の児童発達支援事業所で作業療法士のパートを週3日(半日:2日 終日:1日)行いながら、実験や授業への出席を行っています。職場ではエビデンスに基づく療育(TEACH プログラム・CARE プログラムなど)を行っています。研究と臨床の経験を積むために、これからも両立を頑張りたいと思います。

#### 将来の目標

博士課程に進み、臨床経験を積みながら教員を目指せたらと考えています。また、どのような道に進んでも、大学院での経験を活かし、自分で考え学び、根拠に基づく作業療法を行えるようになりたいです。

修士課程を卒業したら、発達障害に関する海外の資格の習得にもチャレンジしたいと考えています。

#### スケジュール



## 博士後期課程

#### グローバル社会で活躍できる保健医療人材になりたいと思っています

日本の作業療法について学びたくて留学を決めました。少子高齢社会におけるリハビリテーションの役割について実体験を通して学びたいと思いました。博士前期課程では研究デザインや統計解析の基礎、多くの研究手法を修得しました。やり方だけでなく本質をつかむための考え方が分かるようになったので、何より「学ぶ楽しさ」を知るようになりました。留学生同士では英語でコミュニケーションをとっているので、毎日がグローバル体験です。今後も臨床に還元できる研究を行っていき、後期課程修了後は韓国に戻り作業療法の発展に貢献できる教員になりたいと思っています。夢に向かって日々成長している自分を実感しています。



Occupational Therapy ! al

金 始映さん

## 修了生からのメッセージ

## message

## 看護学領域



**小池 彩乃さん** 2018 年博士前期課程修了 老人看護 CNS コース 2021 年博士後期課程入学

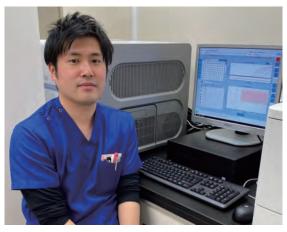
#### 大学院での生活や研究テーマについて

大学院進学の動機は「老人看護専門看護師になりたい」という思い1つでした。2年間学業に専念し、仲間と共に切磋琢磨して「今が一番頑張る時なんだ」と、必死に勉学に励みました。研究は、認知症高齢者への効果的なケア方法について介入研究を行い、現在も臨床での活動に役立っています。

#### 大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか?

老人看護専門看護師の資格を取得し、現在は HCU 病棟に所属しながら、「認知症ケアチーム」の一員としても活動しています。専門的知識や技術は、臨床における高齢者ケアの実践、スタッフ教育、地域の高齢者に向けた講話などに役立っています。また、連携に必要なコミュニケーション力も培われたと感じています。研究や実習の際、スタッフへ高齢者ケアの方法を伝えるためには、新たな組織で信頼関係を構築し、連携を図る必要がありました。そこで、自分の考えを分かりやすく言語化する能力、現場の問題をすぐに文献を用いて調べる行動力など実践で身につけることができました。これらの知識はチーム活動においてコンサルテーションを受ける際に活かされており、大学院で得た様々な学びは現在も生き続けています。

## 生体情報検査科学領域



**平本 卓さん** 2018 年博士前期課程修了

#### 大学院での生活や研究テーマについて

臨床検査技師として働く中で、さらに知識や研究技術を深く追求したいと思い、大学院への進学を決めました。研究テーマは働く中で見えてきた疑問をもとに決めました。大学院での授業は専門領域だけでなく、他領域の授業を受けることもできるので非常に勉強になりました。

#### 大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていま すか?

大学院では研究テーマを決定してから多くの情報を集め、最適 なサンプル調製や研究方法などを模索し、研究計画をたてます。 うまくいくとは限らず、失敗を繰り返しながら研究をしていま した。

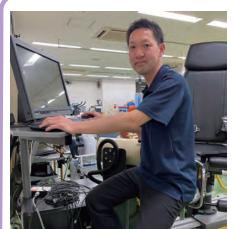
日々、仕事をしている中で疑問や課題に直面することがあります。そうした時に疑問及び課題に対していかにして解決できるか様々な角度から考えるようにしています。

また、社会人大学院生であったため、研究に割ける時間には限りがあり、効率的に研究を進める必要がありました。今では時間の使い方を工夫し、学会発表や論文作成も積極的に行っています。社会人大学院生は時間的に難しいところはありますが、社会人ならでは視点も研究に役立ったと思っています。

## 修了生からのメッセージ

## message,

## リハビリテーション学領域(理学療法学)



**高橋 和宏さん** 2012 年博士前期課程修了 2016 年博士後期課程修了

#### 大学院での生活や研究テーマについて

肩の運動療法を追求したいという想いで、上肢挙上における体幹の役割をテーマに研究をしていました。結婚して、子どもも生まれてのタイミングでしたが、指導教員、研究室の仲間、家族に支えられて修了することができました。

#### 大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか?

大学院では、研究する力と自己管理能力が身に付きました。現在は大学病院で働き、研究も継続しています。学会発表、論文投稿といったアウトプットの過程では、必然的にインプットの量が増えるため、研究分野に限らず様々な情報収集がスピーディーに行えるようになりました。また、組織を管理する立場になり、臨床での取り組みもただやるのではなく、効果判定を行い、継続なのか、それとも修正が必要なのかを見極めながら実践することにも研究の姿勢が生きています。そして、自己管理能力も向上したことで複数タスクに対しても、計画的に対応することができています。今後も臨床と研究から本当に価値のあるものを臨床に還元し、そのプロセスを教育として伝えていきたいと思います。

## リハビリテーション学領域(作業療法学)





村松 美春さん 2020 年博士前期課程修了

#### 大学院での生活や研究テーマについて

私は作業療法士として病院で勤務しつつ、大学院に進学しました。勤務後や休日に講義を受講し、卒業研究から継続して上肢運動機能と視線移動について研究を行いました。臨床と研究の中で予定通りに進まず難渋することもありましたが、指導教員の先生や先輩方、研究室の仲間の協力を頂き、修了することができました。また、在学中にはフィリピンの養成校への訪問や学会への参加など様々な経験をさせて頂きました。

#### 大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか?

大学院に進学したことで、臨床での疑問を解決しながら取り組む意識が高まったと感じます。勉強会など研究室の先輩方の研究内容や発表を聞かせて頂く機会も多くあり、自分の研究テーマ以外の分野についても興味が広がるようになりました。また、フィリピン研修では海外での作業療法に触れ、地域や社会によるニーズの違いなど新たな知見を得ることが出来ました。勤務しながらの大学院進学は大変なこともあるかと思いますが、様々な経験を通して得られるものは大きいと思います。



## 博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。その他に、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的

その他に、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的 臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学	基礎看護学分野	」 基礎生体情報検査科学分野	   基礎リハビリテーション学分野 
ユニット 応用保健学	応用看護学分野	。     応用生体情報検査科学分野 	     応用リハビリテーション学分野 
地域・国際	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	・ ・ 地域・国際 ・ リハビリテーション学分野

#### 教育ポリシー

- 1 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)~このような人を求めています~
- <人材育成の目標>
  - 1)全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する者
  - 2) 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する者
  - 3) 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる者
  - 4) 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる者
- <入学者に求める能力・資質>
  - 1)保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
  - 2) 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の教育者・研究者を志す人
- 2 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)~このような教育を行います~

保健学専攻博士前期課程では、人材の育成を通じて社会へ貢献するために、次のような教育を行います。

- 1)全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得させる教育
- 2) 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3) 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育
- **3 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)**~このような人材を育てます~

修了要件を満たした次のような者に修士の学位を授与します。

- 1) 学部における研究、教育を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び 集団の健康保持増進や生活の質(QOL)向上のための独創的あるいは学際的な研究を進められる者
- 2) 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた者



## 博士前期課程各ユニットの特色

#### 基礎保健学ユニット(基礎看護学分野/基礎生体情報検査科学分野/基礎リハビリテーション学分野)

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行う。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行う。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものである。



#### 応用保健学ユニット(応用看護学分野/応用生体情報検査科学分野/応用リハビリテーション学分野)

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、 心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポー ツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究 の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及 び教育指導を行う。病を持つ人の適応、効果的な看護技術 や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患 検査法の開発などが含まれる。さらに、高度専門医療人で ある専門看護師(慢性疾患看護、がん看護、母性看護)及 び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行う。 ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知 識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システ ム強化アプローチの「医療技術」に合致するものである。



#### 地域・国際保健学ユニット (地域・国際看護学分野/地域・国際生体情報検査科学分野/地域・国際リハビリテーション学分野)

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導する。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行う。さらにチーム医療教育機関のネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的多職種連携医療教育を推進する。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHO の提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものである。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を実践する高度専門医療人である専門看護師(老人看護)の教育・養成を行う。



## 専門看護師(CNS)プログラム

#### <CNSとは?>

Specialists! 専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に 対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

#### <CNS になるためには?>

看護師免許を有し、通算 5 年以上の実務経験(うち 3 年間以上は専門看護分野)、ならびに大学院博士前期課程での学修が 必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

#### <群馬大学でも CNS の勉強ができるの?>

本学は群馬県で唯一 CNS コースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・老人看護・母性看護の4つのコース があります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程 (38 単位)を実施しています。CNS 認定審査に合格した本学修了の CNS は、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると 共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNS については、こちらもご参照ください → https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/



#### がん看護

#### がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します



がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和 ケア」と群馬大学の特徴である重粒子線治療とを関連させ、「放射線療法 看護」をサブスペシャリティにしています。

これまでに27名の修了生を輩出、全員が最短で認定審査に合格し、県 内外で CNS として活躍しています。実習では、本学を修了した CNS の指 導を受けた後、自施設での実習でも CNS の指導が継続して受けられるよ うにしています。本学 CNS1 期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看 護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでな く、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からの e-learning による講義を推進するとともに、がんプロ フェッショナル養成プラン採択事業として、新たにゲノム、小児・AYA・ 希少がん、がんライフステージ・QOL サポートなど専門家、教育リソース の少ない分野の教育を開始しました。令和2年度までに、博士前期課程5 名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

#### 慢性疾患看護

#### 理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します



- ◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは?:外来、病棟、在宅などあ らゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増 進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理 論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。
- ◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は?:糖尿病、腎臓病、循環 器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関す講義・演習・実習を 行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病 者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制 度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、 実習の5本柱になります。
- ◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は?:病院施設での主任 や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場 など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら 活躍しています。

## 専門看護師(CNS)プログラム



#### 老人看護

#### おたっしゃ社会をクリエイトする高齢者看護のスペシャリストを育成します



日本の高齢率は世界で最も高い水準にあります。本コースでは、サブスペシャリティを「認知症」と「在宅看護」とし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための支援方法を学び、地域包括ケアシステムの中で活躍できる CNS の育成を目指しています。

実習は、病院、認知症専門外来、訪問看護ステーション、介護施設、在宅ケア機関など様々な場で行います。確かな業績と経験をもつ大学教員、老人看護 CNS、医師・薬剤師等他職種の専門家が指導にあたります。

2021 年現在、12 名の老人看護 CNS が本学から誕生しました。病院で高齢者の急性期治療や、退院支援に携わる者、施設で認知症高齢者の生活や健康を支える者、行政で介護予防などの相談業務に携わる者、訪問看護師として高齢者の安らかな最期を支える者、大学で教育に携わる者と、活躍の場と内容は様々です(bpsd.jp/で検索)。あなたも群馬大学で高齢者に伴走する頼もしい CNS を目指しませんか!

#### 母性看護

#### 母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します



本学の母性看護 CNS コースは、母性看護のスペシャリストとして周産期のメンタルヘルスケア、ハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護を得意とする CNS の育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護 CNS を育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目(講義:母性看護学特論 I・II・III)、②母性看護 CNS の実践能力を強化する科目(講義と演習:母性看護学特論IV・V、母性看護学演習 I・II)、③母性看護の現場で母性看護 CNS の実践能力を養う科目(実習:母性看護学実習 I・II・III)の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、病院施設で師長や主任、教育担当、メンタルヘルス外来の立ち上げ、退院後の訪問活動など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を発揮しています。







## 専門職養成プログラム

Programs!

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師(CNS)の他に、臨床研究コーディネーター(CRC)管理者養成コースや地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

#### 臨床研究コーディネーター(CRC)管理者養成コース

#### 臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成





新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター(CRC)やデータマネージャー(DM)と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル(臨プロ)」の称号が与えられます。令和3年3月までに、15名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。

#### 地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

#### 地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します



これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)の支援を受けました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。令和2年度までに50名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。



## 博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、 生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育 研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、 それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

- ◎ 共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。
- ◎ 専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに 教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学 修します。
- ◎ 特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の解読力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

#### 教育ポリシー

- 1 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) ~このような人を求めています~
  - 1) 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる者
  - 2) 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる者
  - 3) 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる者
  - 4) 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる者
- <入学者に求める能力・資質>
  - 1) 前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を持ち社会に貢献したいと考える人
  - 2) 将来、保健医療・福祉等の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 2 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) ~このような教育を行います~

保健学専攻博士後期課程では、人材の育成を通じて社会へ貢献するために、次のような教育を行います。

- 1)保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる能力を育成する教育
- 2) 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる能力を育成する教育
- 3) 保健学の高度な専門知識と技術を有した、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4) 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる能力を育成する教育
- **3 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)**~このような人材を育てます~

修了要件を満たした次のような者に博士の学位を授与します。

- 1) 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における研究、教育を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質(QOL)向上のための独創的あるいは学際的な研究を進められる者
- 2) 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた者

## COURSE

## 博士後期課程各領域の特色

#### 看護学領域(基礎看護学分野/応用看護学分野/地域・国際看護学分野)

看護学領域の特色は、看護学の Key Concepts である「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことである。また、現代社会は、慢性病(生活習慣病を含む)・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバリゼーションの加速、ICTの進歩がある。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々のQOLを高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探求し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することである。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用いる。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成する。



#### 生体情報検査科学領域 (基礎生体情報検査科学分野/応用生体情報検査科学分野/地域・国際生体情報検査科学分野)

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの 精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的と した教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学 領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬 品の開発に参画する。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像 解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾 病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究する。続いて、生体に生 じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を 免疫組織化学的及び分子生物的な最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応 用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。そして、病理学的検査・ 細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。さらに、 新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の 教育・研究を行う。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、 国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指す。更に、開発途 上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養 成する。

#### リハビリテーション学分野 (基礎リハビリテーション学分野/応用リハビリテーション学分野/ 地域・国際リハビリテーション学分野)

リハビリテーション学で対象とする障害について ICF(国際生活機能分類)は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげている。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持つ。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とする。



## Nursing!

#### 所属教員と研究テーマ

- ●博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)
- 〇博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。
- (食) 食健康科学教育研究センター兼任
- \*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定
- ※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### 看護学領域

基礎保健学ユニット:基礎看護学分野

#### ●小澤 厚志・准教授; E-mail ozawaa@

- ① 医療面接における遺伝情報管理に関する研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

#### O恩幣 宏美・准教授; E-mail sanaki@

- ① 多様性のある看護職のキャリア発達に関する研究
- ② 看護職の生産性向上につながる職場環境・労務管理に関する研究
- ③ 病棟看護師の退院支援の能力向上に対する継続教育の研究
- ・中村 美香・講師

看護師の医療安全や自律性に関する研究等

・柳 奈津子・講師

安楽・安寧に関するケアの効果の検証

- ・櫻井 一江・助教
  - ①看護職の職業的アイデンティティに関する研究
  - ②人工透析医療に関する人類学的研究

#### 応用保健学ユニット:応用看護学分野

#### ●大山 良雄・教授 ; E-mail ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究(予防、治療、療養指導など)
- ②慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネージメントに関する研究

#### ●岡 美智代・教授 食; E-mail michiyooka@ URL: https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ②慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究

#### ●金泉 志保美・教授; E-mail kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ小児の在宅ケアに関する研究
- ② 小児の退院支援に関する研究
- ③ 入院中の小児の日常生活や発達を支援するための研究

#### ●近藤 浩子・教授; E-mail hirokok@

- ① ストレスマネジメントに関する研究
- ② グループアプローチに関する研究
- ③ 精神科リハビリテーションに関する研究
- ④ 精神障害をもつ人の看護に関する研究

#### ●近藤 由香・教授; E-mail yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ②がん患者のリラクセーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアに関する研究







## Nursing!

#### 所属教員と研究テーマ

- ●博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)
- 〇博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。
- 食 食健康科学教育研究センター兼任
- \*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定
- ※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。** 

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### 看護学領域

応用保健学ユニット:応用看護学分野

#### ●篠﨑 博光・教授 ; E-mail h\_shinozaki@

- ①禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンス・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

#### 〇牧野 孝俊・准教授; E-mail tmakino@

- ①父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究
- ・國清 恭子・講師

出産体験の内容、出産体験の振り返り支援に関する研究等

- 高橋 さつき・講師
  - ①慢性腎臓病の患者教育普及にむけた研究
  - ②ICT を活用した患者教育・セルフマネジメントツールの開発等
- ・京田 亜由美・助教

終末期がん患者・家族へのケア等

- ・齋藤 明香・助教
  - ①セミオープンシステムに関する研究
  - ②高年妊産婦に関する研究
- ・佐藤 亜紀・助教

看護師のメンタルヘルスに関する研究

· 瀬沼 麻衣子 · 助教

がん患者の QOL や治療選択に関する研究等

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教 食

慢性疾患の看護に関する研究







## Nursing!

#### 所属教員と研究テーマ

- 博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)
- 〇博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うこ とは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。
- 食 食健康科学教育研究センター兼任
- \*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定
- ※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### 看護学領域

地域・国際保健学ユニット:地域・国際看護学分野

#### ●大庭 志野・教授<mark>(</mark>食); E-mail oba@

- ①生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

#### ●牛久保 美津子・教授: E-mail ushi2@

- ①在宅終末期ケアに関する研究
- ② 退院調整・地域連携に関する研究
- ③ 在宅療養支援に関する研究
- ④ 非がん療養者の緩和ケアに関する研究

#### ●内田 陽子・教授 ; E-mail yuchida@ URL: http://bpsd.jp/

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発(認知症ケア、 EOLC、包括的 BPSD ケアシステム®等)
- ② 地域住民に対する EOLC の意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ 老年看護学のエビデンスと理工学を融合した研究

#### ●佐藤 由美・教授; E-mail satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ②保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

#### 〇石川 麻衣・准教授; E-mail mishikaw@

- ① 行政保健師の機能・役割および活動の特質に関する研究
- ② 健康づくりの展開方法に関する研究
- ③ 地域における健康危機管理に関する研究

#### 〇伊東 美緒・准教授; E-mail mioito@ URL: http://bpsd.ip/

- ① 認知症症状を軽減するためのケア方法に関する研究
- ②認知症症状を軽減するための生活環境に関する研究
- ③ 認知症症状を軽減するための研修方法の開発

#### 〇辻村 弘美・准教授: E-mail tuiimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

#### ・小山 晶子・助教

高齢者の服薬管理支援、地域における高齢者の支援体制づくり、高齢者の転倒予防ケア

#### ・梨木 恵実子・助教

訪問看護、呼吸器疾患やエンドオブライフケアの在宅高齢者に関する研究

#### 堀田 かおり・助教

地域における高齢者の健康づくりへの支援に関する研究

#### ・松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等







- ●博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ○博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うこ

とは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

食 食健康科学教育研究センター兼任

\*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### 生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット:基礎生体情報検査科学分野

#### ●大西 浩史・教授; E-mail ohnishih@ URL: https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 脳老化メカニズムについての研究
- ●\*\*輿石 一郎・教授(食); E-mail koshiishi i@
  - ① 細胞内変性オルガネラ除去機構における脂質過酸化の役割に関する研究
  - ② 活性酸素種・活性窒素種・活性イオウ分子種によるホメオスタシス調節機構に関する研究
  - ③間葉系細胞の老化に関する研究

#### 〇柴田 孝之・准教授(食); E-mail tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価

#### 応用保健学ユニット:応用生体情報検査科学分野



URL: https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学 的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究

#### ●齋藤 貴之・教授: E-mail tsaitoh@

URL:http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=16646

- ① 血液疾患・腫瘍の遺伝子多型の研究
- ② DNA 修復の研究
- ③ 支持療法の有用性の研究
- ●中村 和裕・教授; E-mail knakamur@ 神経変性疾患の治療法開発
- ●横山 知行・教授: E-mail tyokoyama@ URL: http://heart.health.gunma-u.ac.ip/
  - ①肥満、遊離脂肪酸による不全心、動脈硬化進展機序の解明
  - ② 遊離脂肪酸による呼吸器疾患進展機序の解明
  - ③ FABP など脂肪酸代謝にかかわる因子と心疾患、動脈硬化に関する研究

#### 〇松井 弘樹・准教授 (食); E-mail hmatsui@ URL: http://heart.health.gunma-u.ac.jp/

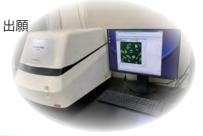
- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析











Sciences!







●博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)

〇博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

食 食健康科学教育研究センター兼任

\*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### 生体情報検査科学領域

応用保健学ユニット:応用生体情報検査科学分野

・笠松 哲光・助教

血液疾患の病態解明等

・後藤 七海・助教

急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

・小林 さやか・助教

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

・西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

#### 地域・国際保健学ユニット:地域・国際生体情報検査科学分野

#### ●\*嶋田 淳子・教授;E-mail jshimada@

- ① 細胞内寄生原虫と感染宿主応答に関する研究
- ② 抗原虫活性をもつ化合物の探索
- ③ 原虫感染における宿主因子の役割と病態形成メカニズムに関する研究

#### 〇豊村 暁・准教授; E-mail toyomura@

- ① 脳波(EEG) および磁気共鳴画像法(MRI)を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究

#### O松本 竹久・准教授(食): E-mail tmatumoto@

- ① Bacterial small-colony variants (SCVs) に関する研究
- ② ヒトに感染する難培養性微生物の発育に関する研究
- ③ 臨床微生物における  $\beta$  ラクタマーゼに関する研究

#### ・鬼塚 陽子・助教

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究





Sciences!

- 博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ○博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)
- ・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。
- (食) 食健康科学教育研究センター兼任
- \*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定
- ※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### リハビリテーション学領域(理学療法学)

基礎保健学ユニット:基礎リハビリテーション学分野

#### ●臼田 滋・教授; E-mail susuda@

- ①機能的制限に対する理学療法に関する研究
- ② 障害構造の分析に関する研究
- ③臨床的評価指標の開発に関する研究
- ④ 神経系障害に対する理学療法の効果に関する研究

#### ●久田 剛志・教授 (食); E-mail hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対するω3 系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

#### ●山路 雄彦・准教授; E-mail tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究
- ・上宮 英之・講師

節足動物がどのように進化してきたのか等

・朝倉 智之・助教

三次元動作解析等、基礎的研究

#### 応用保健学ユニット:応用リハビリテーション学分野

- ●\*坂本 雅昭・教授; E-mail msaka@
  - ① スポーツ障害・外傷の発生機序の分析と予防に関する研究
  - ② スポーツ障害・外傷に対する理学療法に関する研究
  - ③ 発育期、中高年期における体力特性に関する研究
  - ④ 運動器疾患に対する理学療法の効果に関する研究

#### ●田鹿 毅・准教授; E-mail tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査 (発症危険因子の検討) 研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究
- ・佐藤 江奈・助教

変形性股関節症の装具療法による身体機能への影響に関する研究

・中澤 理恵・助教

成長期 (特に中学生年代)のスポーツ傷害予防に関する研究等

#### 地域・国際保健学ユニット:地域・国際リハビリテーション学分野

- ●山上 徹也・准教授; E-mail yamagami@ URL: https://brainreha.iimdofree.com/
  - ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
  - ②介護予防(集団・個別介入、評価、地域作り)に関する研究
  - ③ 地域におけるリハビリテーション (訪問、通所、施設) に関する研究
  - ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究









●博士前期・後期課程特別研究担当教員(指導教員)

〇博士前期課程特別研究担当教員(指導教員)

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うこ とは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

\*2023年3月31日退職予定、\*\*2024年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願

に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address:@以下に gunma-u.ac.jp

#### リハビリテーション学領域(作業療法学)

基礎保健学ユニット:基礎リハビリテーション学分野

#### ●李 範爽・教授; E-mail leebumsuk@

- ① 加速度計や圧センサー、Actiwatch などを用いた上肢機能の運動学的解析
- ② 中枢神経障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ③ 視空間認知機能障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ④ Actiwatch などを用いた身体活動量や生活リズム、睡眠の定量的評価

#### ●三井 真一・教授;E-mail smitsui@ URL: https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/

① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究

- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究

#### ●\*山崎 恒夫・教授; E-mail tsuneov@

- ① アルツハイマー病発症に関する基礎医学的研究
- ② 認知症患者の神経心理学的評価に関する研究
- ・田中 浩二・准教授

高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

・野口 直人・助教

頚椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

#### 応用保健学ユニット:応用リハビリテーション学分野

#### ●平尾 一樹・准教授: E-mail kazuki.hirao@

- ① 閾値下うつ病に対する介入方法の開発に関する研究
- ② 精神疾患を有する人々に対する作業療法の効果に関する研究
- ③ 精神病様体験に関連する要因の同定に関する研究

#### 下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究

#### ・土屋 謙仕・助教

- ① 心身の機能と日常生活の活動に関する研究
- ② 認知症のリハビリテーションに関する研究

#### 地域・国際保健学ユニット:地域・国際リハビリテーション学分野

#### ●菊地 千一郎・教授: E-mail senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

川島 智幸・准教授

World Englishes(世界の様々な英語)の授業への応用、教材開発、教育的効果など

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究















## 出願から修了までのプロセス

## 保健学専攻博士前期課程

大学卒業者など

短期大学・専門学校卒業者など

出願資格の審査

出願手続き (出願書類の提出)

\*出願前に指導を受けようとする特別研究担当教員と連絡を取り、入学後の研究内容について必ず相談しておいて下さい。

入学試験

- ・小論文
- 外国語\*\*\*
- □頭試問

専攻での学修

- ・講義科目
- ・演習科目
- ・実習科目
- 特別研究科目
- 課題研究科目

等

修了

- ・標準修了年限 2年
- 修了要件
- 30 単位以上(CNS コースは 除く)

修士論文等の研究成果への審 査、及び最終試験の合格

• 学 位

(保健学又は看護学)

修士

## 保健学専攻博士後期課程

保健学専攻博士前期課程修了者

他の博士前期課程 (修士課程)修了者

の実務経験を有する者など

大学卒業後 5 年以上

出願資格の審査\*

出願手続き

(出願書類の提出)

\*出願前に指導を受けようとする特別研究担当教員と連絡を取り、入学後の研究内容について必ず相談しておいて下さい。

入学試験

- 外国語\*\*\*
- 修士論文などの業
- □頭試問

績の審査

専攻での学修

- 特講科目
- ・概論科目
- 演習科目
- •特別研究科目
- ・学術雑誌への 投稿・受理

等

修了

- ・標準修了年限 3年
- ・修了要件
  - 14 単位以上

博士論文の審査及び最終試験の合格

• 学 位

博士

(保健学又は看護学)

※出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧になってください。

※※出願時に TOEFL-PBT(Paper Based Test)、TOEFL-iBT(internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test( 公開テスト )、又は IELTS(Academic Module) のいずれか 1 つのスコアの提出をもって、外国語 ( 英語 ) の筆記試験 に代えることができます。詳しくは、「学生募集要項」をご確認下さい。

## 修学支援・教育支援・修了後の進路

### 修学のための支援

#### 1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは 半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた 者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

#### 2. 奨学金紹介

本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。

#### 3. ティーチング・アシスタント (TA) 及びリサーチ・アシスタント (RA)

大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではTA、博士後期課程ではRAとして採用します。

### 社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果、令和3年度博士前期課程では全学生の37%、博士後期課程では75%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、平成19年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

#### 1. 昼夜開講制、土日の集中講義

開講時間は、昼間:8:50  $\sim$  17:50、夜間:18:00  $\sim$  21:10 で土・日曜日にも授業を行うことがあります。 ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。

#### 2. 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)で修了することが 困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長 期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学 生として許可された在学年限数で除した額となります。

#### 3. オンラインによる遠隔講義

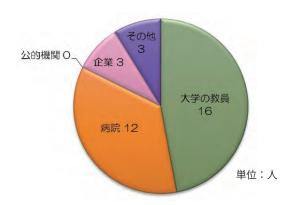
終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させつつあります。

### 修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後(在学中に就業しているものも含みます)は、保健医療・福祉の教育機関(大学、短期大学など)、医療・福祉機関(群馬大学医学部附属病院、公立病院など)、地域保健・行政機関(群馬県、各市町村など)、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター(CRC など)などに多く就職しています。



平成30~令和2年度、博士前期課程修了者の進路



平成30~令和2年度、博士後期課程修了者の進路

# Information!

## 入試日程・募集人員

## 2022 年度入試日程

2021年 ~7月2日(金)	・出願資格審査締切(該当者) (審査結果は 2021 年 7 月 26 日までに通知します) ・外国人留学生用試験申込締切
7月16日(金) { 8月3日(火)午後3時	・検定料*取扱(納付)期間 *検定料¥30,000
7月28日(水) { 8月3日(火)	・出願受付期間(必着)
9月 5日 (日)	• 試験実施日
10月5日 (火)	• 合格者発表

#### ※必ず学生募集要項をご確認ください。

## 募集人員

#### 博士前期課程

専 攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット 応用保健学ユニット 地域・国際保健学ユニット	50名

#### <選抜方法>

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要 等の出願書類を総合して判定します。なお、小論文は保健、医療一般に関する知識及び思考力を問います。外国 語は英語の文献を読解する能力を問います。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

#### 博士後期課程

専 攻	領域	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	10名

#### <選抜方法>

学力試験(外国語(英語))、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。外国語(英語)では英語の文献を読解する能力を問います。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行い、研究者又は高度な専門性を有する職業人としての適性及び意欲を審査します。

## アクセス・問合せ

### アクセス



前橋駅行きバス乗車→群大病院入り口下車(約30分)徒歩6分

### 問合せ

#### 群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL: 027-220-7797 E-mail: kk-mgakumu5 $\bigstar$ jimu.gunma-u.ac.jp ( $\bigstar \rightarrow @$ )

※ 特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究 科・医学部保健学科のホームページ(http://www.health.gunma-u.ac.jp)をご覧 ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、Twitter による情報発信も行っています。







## 群馬大学大学院保健学研究科 保健学専攻